

読りーむ in ちの 25周年記念イベント

第1弾

ワークショップ&講演

講師・鈴木まもるさん

読りーむ in ちの25周年記念イベント第1弾、ワークショップと講演会が7月13日、永明小・中学校えいめいホールで開催しました。講師は絵本作家で鳥の巣研究家の鈴木まもるさん。ワークショップ「鳥の巣作ろう」、講演「絵本と鳥の巣の不思議」に、延べ100人を超す親子連れや一般市民らが集まりました。

【ワークショップ】 55人参加

鈴木さんが用意した木の枝、毛糸、干し草、綿、スパンコールなどの材料を見るなり、子どもたちは大盛り上がり。何度もやり直しながら夢中で取り組み、アイデアいっぱいの鳥の巣を作り上げました。

「鳥の数だけ巣があり、親子の数だけ巣がある。同じものは2つとなく、カラフルで個性ある鳥の巣が出来上がった」と鈴木さんが講評。

子どもたちは自分の作品についてしっかりと説明し、大事に持ち帰りました。



鳥の巣作りのワークショップ



【記念講演】 50人参加

絵本と絵本のさし絵を描いている鈴木さん。作家として伝えたいこと、描きたいことを絵にして伝えていくことにしています。

「読み手には、いろいろな生き方をしたいんだよということを伝えていきたい。例えば「あ」の字でも横長の『あ』もあれば立体的な『あ』もあります。どれも『あ』だけど表現はいろいろあります。

カボチャとキュウリの苗は最初、見た目には分りにくいけれど、カボチャは横に伸びるし、キュウリは上に育ちます。その子はその子らしく育つのが良い。母親のお腹の中にいたように、膝に乗せて絵本を読んであげるのが、子どもが安心して話を聴けます」。

軽妙なトークで会場を沸かせていました。

ホワイトボードに次々と絵や「あ」の字をかきながらお話をする鈴木さん



新1年生に1冊ずつ

今井市長から手渡される新1年生(写真は全て湖東小)



今井市長の読み聞かせ



早速、贈られた本で親子読み

茅野市内の新1年生全員に希望する本を1冊ずつ贈るセカンドブックプレゼントの手渡し会が5月28日(湖東、米沢)から7月10日(永明)まで、9小学校で実施。児童382人と担任16人に、リストの中から事前に希望した本をプレゼントしました。

このうち湖東小では、今井敦市長、湖東地区コミュニティセンター所長、地区民生児童委員会長、地区主任児童委員、読りーむ in ちのメンバー計7人がプレゼンターを務めました。

今井市長は、『おじさんのかさ』の読み聞かせを披露。登場人物の声色をたくみに使い分けることで定評の市長、今回も子どもたちの心をしっかりつかんでいました。

手渡しでは、新1年生32人の1人ひとりに、プレゼンターが「うちの人と一緒に読んでね」などとひと言添えました。



読書で 心豊かな子どもの育成を

湖東小 服部大輔校長

セカンドブックプレゼントを受け取った子どもが、満面の笑みで親に持っていく表情、わが子を包み込むような優しい表情で迎え入れる親。読み聞かせでは、温かい声に包まれるようにリラックスしながら絵本の世界に入り込んでいく親子の姿が見られました。

読み聞かせは、創造力や語彙力を育て、集中力を養い、何よりも子どもの情緒的な成長を促すものになることを改めて感じました。これからも読書・図書館教育を充実させていき、心豊かな子どもの育成に努めていきたいと思っています。

子どもたち演目に集中

こどもまつりで 読りむ in ちのおはなし会

今年41回目となる茅野市こどもまつりが6月1日、JR茅野駅周辺で開催。読りむ in ちのはベルビアでおはなし会を開き、約40人の親子連れが集まりました。

演目は紙芝居『なんにもせんになん』、パネルシアター「ドレミの歌」「はらぺこあおむし」、大型絵本『ぐりとぐらのえんそく』。合間にはお話の小道具を使った「だれのたまご？」を楽しみました。

子どもや親子連れが自由に出入りする慌ただしい中でも、集中して聴く子どもたち。「次回はどんな演目にしようか」とメンバーらは期待を膨らませていました。



おはなしを集中して聴く子どもたち

心地いい読み聞かせ 著作権もっと知りたい

第1回読書ボランティア交流会



竹内さんによる読み聞かせ

今年度第1回読書ボランティア交流会(茅野市こども読書活動応援センター、読りむ in ちの共催)が6月26日、市図書館で開催し、読書ボランティアや読りむ in ちのメンバーら約30人が参加しました。

読りむ in ちのメンバーで朗読教室主宰の竹内郁子(心郁)さんが『諏訪のむかし話』から「妹恋しや」の朗読、絵本『がんばれ、なみちゃん!』の読み聞かせをしました。参加者は「耳に心地いい語り口で、とてもリラックスできた。初めて朗読を直接聴けて良かった」と感想を話していました。

前回の読書ボランティア交流会で話題になった著作権に関

するQ&Aでは

—地域ボランティアが授業で読み聞かせをすることは？

教員からの指示または子どもの求めがあれば可能。

—ボランティアが絵本を参考に拡大して演じることは？

物理的な拡大は授業の範囲で認められているが、解釈の拡大や「演じる」は、改変や翻案に当たる。著作権法第35条では認められていないので、出版社に許諾を。—読み聞かせボランティアが本の加工をして、プロジェクトで紹介することは？

加工(法律上の改変)は授業でも認められていない。拡大は授業の範囲で可能。

交流会、情報交換会では、「著作権の難しさを、改めて感じた。紙芝居や朗読の会でも、1つずつ著作権の許可を取ってからやっているという実例を聞くことができた」などと話していました。



著作権許諾の実例を話した情報交換

会長、副会長、3事業部長再選

読みむ in ちの 2025(令和7)年度総会

2025(令和7)年度総会は5月17日、ゆいわーく茅野で開会。奥原貴美子会長、赤沼今朝廣、高木みゆき両副会長、3事業部長ともに再選となりました。

役員、事務局体制は次のとおりです。



今年度の定期総会

役員	会 長	奥 原 貴美子
	副会長	赤 沼 今朝廣
企画運営委員	同	高 木 みゆき
	ファーストブックプレゼント事業部 部長	荒 木 真理子
	同 副部長	平 澤 治 子
	セカンドブックプレゼント事業部 部長	鏑 木 喜久美
	同 副部長	小 田 由 美
	広報事業部 部長	山 脇 勝 典
	同 副部長	岡 角 薫
		五 味 一 男
		大 西 恵 美子
		山 川 澄 子
監事		柳 澤 由里子
		小 松 八重子
事務局	事務局長、こども読書活動応援センター長、生涯学習課長	矢 嶋 浩 行
	事務局次長、生涯学習係長	武 居 直 樹
	図書館長兼図書館係長	伊 藤 利 恵
	こども読書活動応援センター長代理	名 取 元 子
	読みむ in ちの担当	梅 津 栄 美

私の1冊

『わたしのぼうし』

作・絵 佐野洋子 ポプラ社

子どもころ、繰り返し読んだ絵本です。

「主人公のわたし、はあかいはなのついたぼうしがお気に入り。ところがある日、そのぼうしが汽車のまどからとんでいってしまいました。お父さんがあたらしいぼうしを買ってきましたが、わたし、はかぶりませんでした。なぜなら、わたし、のぼうしのようにではなかったから…。

この絵本の赤い花のついた帽子は、当時の私の気持ちと重なるところが多くありました。

不注意で大事にしていたのものをなくしてしまい、新しいものを買ってもらいましたが、わたし、同様受け入れられませんでした。なくしたもの、とは比べものにならなかったから。

「わたし、は、ちょうちょが止まったぼうしと、自分のエピソードで受け入れ始めたのかな？」と感じました。

子どもころの自分の大事なものに対する気持ちを思い出させてくれる絵本です。

森寛子

